

第3回 丹波市生涯学習基本計画審議会（摘録）

開催日時	令和元年 10 月 4 日（木）午後 1 時 30 分開会～午後 4 時 00 分閉会
開催場所	氷上住民センター
出席者	【委員】 岡田龍樹委員長、萬浪佳隆副委員長、荒木伸雄委員、山内佳子委員、大西誠委員、廣瀬渡委員、酒井礼子委員、松本佳則委員、松井宣子委員、細見典子委員 【丹波市】 副市長 【丹波市教育委員会】 教育部長、教育部次長、教育総務課長 【事務局】 まちづくり部長、まちづくり指導員、市民活動課
欠席者	【委員】 足立雅人委員 角悟委員、酒井芳朗委員
傍聴者	なし
次 第	1. 開会 2. 委員長あいさつ 3. 会議の公開・非公開について 4. 報告事項 （1）第2回審議会報告について 5. 協議事項 （1）本日の協議の進め方について （2）丹波市生涯学習基本計画後期計画の策定内容について （3）基本目標を達成するための課題について ①まなび人を増やそう ②まなび力を育てよう ③まなび里をつくろう （4）課題解決に向けた具体的な施策について （5）まとめ 6. 第4回審議会の開催日程 7. 閉会
資 料	【資料1】 第2回審議会摘録 【資料2】 ワークショップまとめ 【資料3】 本日の会議の進め方について 【資料4】 丹波市生涯学習基本計画後期計画の策定内容について 【資料5】 生涯学習アンケート結果から見える現状と課題 【資料6】 生涯学習アンケート調査結果報告書（クロス集計合算）

会議摘録	
発言者	発言の要旨
委員長	1. 開 会 ○開会あいさつ 2. 委員長あいさつ 本日は、生涯学習の基本計画について、いろいろ課題になるところを挙げ いただき、さらにその先の展望を皆さんからご意見いただき、次の会議で それをまとめて後期計画の作成へと進めて行きたいところです。様々なご 意見を頂きますようよろしくお願いします。 本日は、丹波市から副市長がお見えになっておりますので、一言挨拶をお 願います。
副市長	皆さんこんにちは。各委員におかれましては、大変お忙しい中、第3回の 審議会にご出席いただきましてありがとうございます。生涯学習基本計画 策定審議会も大詰めを迎え、今日は、計画の中身についても議論をいただく ことになります。後ほど事務局から説明がありますけれど、特に【資料4】 のところを見ていただければ、基本理念の下に、めざす市民像とか、めざす まちの姿、それぞれイメージをたたき台として挙げています。これから重要 なのはゴール目標をどこに持つか、つまり生涯学習社会としてどんな社会 を目指そうとするのか、目指そうとする生涯学習社会の市民ってどんな学 び方をしているのか？そこがしっかりイメージできれば、つまりゴール目 標がイメージできれば、それを実現するための手段、つまり施策・組み が自ずと明らかになってくる。そういう意味では、将来のゴール目標、目指 す生涯学習社会、目指す市民像が具体的にイメージできることが重要と思 います。たたき台は作っていますので、十分にご討議いただいてゴール目標 を明らかにしていただければと思っています。 特に前回、前々回から丹波市の最大の課題は、人口減少の中でいかに将来 にわたって地域が活力を持ち続けるか、そういう課題を念頭においてどう 生涯学習として学んでいくのか、どんなテーマでどの様に学んでいくのか、 地域が活力を持ち続けるようにするにはどうすればいいのか。その辺りの 生涯学習の関係性を踏まえていただきご検討いただきたい。どうぞよろし くお願いします。
委員長	ありがとうございました。
委員長	3. 会議の公開・非公開の決定について それでは続いて会議の公開、非公開について。 運営要綱第2条におきまして、会議の公開又は全部もしくは一部の非公 開は委員長が会議に諮ってこれを定めるとなっている。本日の議事におい

	ては、特段個人情報特定されることはないと考えておりますので公開とします。
委員長	4. 報告事項 事務局に説明を求めます。
事務局	(1) 第2回審議会報告について ○資料1、資料2に基づき説明
委員長	ありがとうございました。今回は、教育委員会からコミュニティスクール関連の説明をいただきました。これまでの丹波市生涯学習基本計画と少し違っているところは、学校をもう少し抱き込んで「学校の課題が生涯学習の課題」としたところです。その後、高校生のインターンシップの生徒さんに来ていただき、現在丹波市で行われている、あるいは今後行われればいだろう活動について具体的なアイデアを出していただきました。 今日はそれらの具体的なイメージを計画の中身に盛り込んでいくためにある程度抽象化した言葉を選びながら、課題設定、展望、ゴールの想定をしていきたいと思っていますのでよろしくお願いします。 それでは続いて協議事項に入っていきたいと思います。
委員長	5. 協議事項 ・本日の協議の進め方について・丹波市生涯学習基本計画後期計画の策定内容について、あわせて説明を求めます。
事務局	(1) 本日の協議の進め方について (2) 丹波市生涯学習基本計画後期計画の策定内容について ○資料3、資料4に基づき説明
委員長	ここまでのところで質問等ありますか？ 資料4が差し替えとなっています。3のめざすまちの姿（イメージ）のところが少し代わっています。「人口が減少しても」というフレーズで始まる備考文が増えています。 日本全体でこれから人口が減少していく。どこまで減り続けるのか。丹波市もまちの戦略で「人口ビジョン」を出されたかと思いますが、どこかで下げ止まりをしなくてははいけない。丹波市の適正人口、減りながらも生き活きとしたまちにしながら、どのあたりで人口が一定になるサイクルに入っていくのか市では考えておられますか？
副市長	市でも2016年3月に「人口ビジョン」と、人口ビジョンを実現するための「創生戦略」を作りました。特に「人口ビジョン」では2010年に6万7千人いた人口が、このまま何もしないと50年後に3万5千人くらいにな

	る。これを何とか食い止め、2060 年に 5 万人にするというのが一つの目標です。その時の出生率が人口の置換水準である「2.1」を確保していく。分母が少なくなっているので「2.1」を確保しても、実際の人口は下げ止まらない。それでも 2060 年には 5 万人を目標としている。ところが、さらに「創生戦略」と「人口ビジョン」を見直そうとしています。計画では、毎年、子どもの生まれる数を 520 人ぐらいと想定していましたが、実際は 400 人を割ろうとしています。この 5 年ほどの間に、子どもの生まれる数が十分に確保できていない。出生率も、2015 年当時は、2020 年に「1.8」ぐらいに戻すということでしたが、実際は「1.6」ぐらいです。それから社会移動、これも 2025 年までに、社会減が毎年 300 人くらいある中でプラスマイナス「0」まで持っていく計画だが、実際はなかなか実現しないということで目標人口をさらに下げる見直しを今年度やろうとしています。そういう意味では下げ止まりができていないというのが現状です。 一方で、若い人が大学で一旦外へ出て、25 歳ぐらいで戻って来たり、戻ってくる女性の数が増えて来たり、良い兆しもあるのが現状です。ただ、どこで下げ止まりになるかという計画にはなっていません。
委員長	ありがとうございました。丹波市の目標としては、5 万人ぐらいで安定して、いきいきと暮らせるまちに…というところですが、しばらくは減っていく。減っていく過程では、人口ピラミッドの上の方が大きくなる時期がどうしてもありますから、生涯学習で繋がっていくような暮らしができるようにするかが課題でもあり、目指すまちの姿に盛り込まれているだろうと推察します。
副委員長	めざすまちの姿（イメージ）ですが、ここに共生社会というのがあり、国や県が使っている「社会的包摂」という言葉を入れた方がなお良いのではないかと思います。社会的弱者等が主体になるという、市民一人ひとりが社会的に包摂されたまちづくり、生きがいづくり、自己実現が見えているまちづくりが良いのではないかと、この辺りでご意見を賜りたいと思います。
委員長	ありがとうございました。また、後の解決方策のところでご発言いただきたいと思いますので、よろしくお願いします。
事務局	（３）基本目標を達成するための課題について ○資料 5、資料 6 に基づき説明
委員長	ありがとうございました。アンケートに基づいて、これまでの生涯学習の取り組み（まなび人・学ぶ機会を増やしていく、そして自らの学びを深め継続し、他の人のために何かをして学びの力を育てる、自分達の学びによってさらに新しく作り出していく活動を推進し、まなび里を作る）の中で、いくつかの課題が見えてきたというまとめをしていただきましたが、皆さんの

委員	中でも見えてきた課題があると思いますので、それぞれ意見を出していただけたらと思います。 「まなび人」、「まなび力」、「まなび里」と分けていますが、どの部分に関わっているのかを含めて現状の課題についてご意見ください。 私は、前期の計画時から関わっていますが、以前から感じているのが、「生涯学習という考え方を市民の方々がどれだけ認識されているのか？」という点です。それを踏まえて、まなび力のところの「多様かつ特色ある教育資源を有する NPO 等との連携・協働を推進し、学びと活動をつなげていく必要がある」という部分が、丹波市の現状からすると高度に思えるし、教育資源を有する NPO というものが実際どういったものか、私にはイメージできていません。教育資源を有する NPO との連携、協働と言うものが実際どのような形で動いているのか、そういった組織がいくつもあるのかどうか、組織が仮に少なく、丹波市として NPO 法人・組織を推進していきたいのであれば、市民プラザが担うべきところは大きいと思います。そこを含めて、社会教育のあり方をもう一度見直すべきだと思います。 今、ある小学校の学校運営協議会の委員をしています、学校と地域との間には壁があると感じています。市民活動と学校教育が連携・連動する取組みが行われていない。市民活動で自己実現をする場を得られた方が、社会教育、学校教育の場に自分の能力や経験を生かしきれていない、また、生かすと言う考えや発想まで至らないケースもある。市民活動は、生涯学習にとっても重要なことですが、持続可能なまちづくりの観点から考えると、培った経験や能力が必ず誰かのために発揮されるべきだし、これからまちの担い手になりうる小学生、中学生の子どもたちに対して経験や能力を還元しなければならないと考えます。
委員長	ありがとうございました。学びや教育に使える資源は、実は地域の中に埋もれており、地域にある資源を地域で使えるようにする仕組みが必要である。そのような仕組みづくりの中で、NPO のような団体が必要になってくるし、あるいは社会教育もそういう機能を果たすべきかも知れない。丹波市にもたくさん資源はあるのだけれど、学びたい人、必要な人のところに上手く届けるような機関、機能が欠けている。それが冒頭で言われた「生涯学習とは何か？」といった時に、地域にある資源を見いだして自分たちも使うし、他人にもそれを使ってもらえる活動をしていくようになる必要がある。ということでしょうか。
委員	資源を生かす仕組みと言うところでお話いただきましたが、基本目標の資料4 基本目標（3）に「～地域の魅力に気づき、学びを生かすことのできる、まなび里をつくろう～」とうたわれていますが、最初の計画のガイダンスでは、まなび力を育てる課題に学びを生かすとうたわれています。学びを生かすという意味合いは、細かくは2で説明されていますので、これの整

	理は必要かと感じます。 もう一点、同じく資料4に副委員長が言われた、「社会的弱者との共生」というところで、社会的孤立拡大など様々な問題に直面しているという現状意識の中で、めざすまちの姿に「社会的に困難な状況におかれていたり…」と語られています。対して、第1回の見直しの方向性では、「社会的に孤立しがちな人々も含めより多くの住民の主体的な参加のためのきっかけづくり」という方向性が示されていました。共生のための支援と、主体的な参加を推進するのでは論点が違うと思う。生涯学習としてどちらに力点を置くのかを整理しておかなければいけない。支援と言う内容では仕掛け・方向性が変わってくるので、指示していただきたいと思います。
委員長	主体的に自ら学びたいことを学ぶ、学ぶために資源を自分で探せる力が必要である一方で、自ら動けない人たちをどう社会の中に取り込んでいくのかという学びと方向性が少し違うということです。
副委員長	今、主体的にというのは「学習」と「教育」の違い、行政的な判断でいうと支援という形が重くなります。この中で生涯学習の計画を立てるといえば、住民側の立場、学習者としての立場で計画を立てていくと同時に、行政としての立場としてどういった市民を作っていくか、その辺の支援策も盛り込まないといけないのではないかと今この事例は起こっていると思います。それは「学習」ということと「教育」との違い。そこをこの計画の中で、言葉ですっきりできれば、行政の人はこうしていかなければならないという方向性を出せば、分かる話ではないかと思います。
委員長	主体的な学びが、自己完結的な学びだけでなく、地域の人たちも巻き込んで、自分の学びに出来るところまで発展してほしい。そこに行政の支援（教育）はするが、最終的には主体的に地域の人達が一緒になっていく力をつけてほしいし、そういう里にしたい。そこをつなげていくための行政の役割は何なのかと言うところを押さえていく必要があるのではないかと。
委員	2つ意見を言わせてもらいます。 1つは、まなび里の資料5のところの4番に「市立図書館を利用する」とある中で、丹波市の広報では、毎月新しい本の紹介はありますが、紹介だけでなく、読んだ感想をもう少し大きく書いていただけたら、それに刺激され、本から学ぶという一般的な教養に繋がり、人生の考え方、見方も変わってきますので、行政へのお願いとして言わせていただきます。 もう1つは、まなび里になるのですが、自治会の発信した情報で地域の人々が動くので、各自治会の役員をやっておられる方にもアンケート結果を読んでもらい実行してほしい。また、市の方で自治会長会、自治協議会の懇話会がある。それぞれのあり方についての結論や、どういう形で具体的にしていくかを、行政がしっかりと方向性を出して議論に生かす形にしてほしい。

委員長	ありがとうございました。図書館のことについて、まず1つご意見を頂きました。読んだ感想を書いて、これを読んだ人はこんなふうに思ったんだ、面白そうだなと広がっていく、学びの共有、学びへの誘いを、学ぶ人達が提示していく仕組みがあればいいなと思います。 もう1つ、まなび里を作っていくうえで自治会の役割は重要だとの指摘ですが、資源を使えるようにする1つの組織としても自治会は機能しているといえますが、これも人口減少とか高齢化とか社会的な背景と密接に関係していて、20、30年前の自治会のあり方と今の自治会とは違ってきているので、直面する問題ではないかと思います。
委員	丹波市の自治会は、唯一丹波市の公民館活動が残っているところでもあります。自治会には、公民館活動が旧町時代から脈々とつながっていて、それが「まなびの場」であると思っています。ただし、自治会によっては行事の見直しが難しく、それが現在の課題といえます。図書館にしても、ただ行政の図書館の職員にやってもらうではなく、ボランティアさんを巻き込み、さらにそこからいろんな市民に発信されるという仕組みを作らないといけないと思います。現在、少しずつ生涯学習を認知する人増えている状況だとは言いますが、実際のところ、子育て世代や仕事を持っている世代は、なかなか参加できていない。しかしながら、丹波市内で行われるイベント等に参加されている方はたくさんおられます。イベントの中に学びの仕掛けを作っていけば、そこが生涯学習を理解し、学ぶ場になる。学びの場を1から作るというのは難しいが、現在あるイベントや活動団体が生涯学習を理解し、学ぶ仕掛けを作っていくというのが丹波市にふさわしい形ではないかと思っています。
委員	今の各単位自治会では、人的支援を生かすことができない、あるいは新たな事業を起こすことができない自治会になっているのではないかと、人的支援を受け入れたり、学びを生かす場となっているのが、自治協議会、自治振興会という組織になっているのではないかなということが、前回の私のグループで話し合ったことです。
委員	市民プラザがこういった発信をして、こういった地域にどのような支援をされていくのか興味を持っているところですが、私は、自治会は既に手一杯ではないかと考えています。自治会、自治会長がいろんな活動をされており、もっと末端までの活動には、自治会長さんや役員さんに加え、さらにサポーターという組織や人材が必要だと思います。 また、まなび人を増やそうという点でいうと、これから伸ばしていただきたいのは子育て世代です。若い世代が趣味をゆったりとした気持ちで続けるためにもサポートが必要で、まなび里を作るためには、自治会、自治協議会というよりも、サポート役を求めていく方が良いのではないかと感じました。

委員長	自治会の問題というのは、全国で抱えているところです。コミュニティの問題で、自治会というのは、「地縁型コミュニティ」です。だから入りたい、入りたくないではなく、そこに住んでいる人を取り込んでいるコミュニティなのです。これは最終的なセーフティネットでもあります。それと最近よく言われるのが、こんな事をやりたいと言う人が地域を離れて集まって何かしようと動く「テーマ型コミュニティ」です。また、行政が入ってまちづくりのために集まって考える「政策型コミュニティ」があります。 コミュニティという視点から、自治会に投げてくださいる形では動かなくなってきたら、ならば、「テーマ型コミュニティ」や「政策型・支援型コミュニティ」が自治会を支援するという形で、自治会ができないところをケアしていく必要があります。
委員	現状と課題の資料5の中で、生涯学習にお金がかかると挙げておられますが、確かに好きなことだからお金がかかってもしょうがないのですが、会場費の免除などの配慮が必要ではないか。また、子育て世代の人が行きたいと思っても子どもを見てもらえないことがあるため、必ず託児とセットとか、生涯学習をしたい、やりたいと思える余裕のある子育て支援を市の方で施策として取り組んでいただくことが、長い目で見るとまなび人の増加につながるのではないかと思います。それから、60歳以上で生涯学習をしている人は女性が多く、男性を趣味の場ではあまり見ないのが不思議です。
委員長	学習阻害要因には4つあります。1つ目が、やりたいけれども施設がない、お金がかかるというような制度的要因です。2つ目が、子育てに忙しい、仕事があるから時間が取れないとか、その人の生活の状況に関わる状況的要因で、これが一番多いです。3つ目が、そもそも学習なんてしたいと思わないという心情的・情緒的要因です。4つ目が、学習したい人のところに学習情報が届かないという情報的要因です。 特に子育てに忙しいという若い世代や、仕事が忙しい人たちが、生涯学習には遠い存在であるということは、社会教育の中でも言われていて、ここの問題は、実は私は重要なところであると思っています。 例えば、丹波市は待機児童問題はないのですか？
副市長	待機児童の定義にもよるんですけども、一般的に言われている待機児童はいないです。定員と、実際に入っている人の数では、満たされている。ただ、ここの認定こども園に行きたいという人が、そこに入れなくて待っておられるという方はいます。でもそれは待機児童の定義にはあたらないので、待機児童とは呼んでいません。
委員長	いわゆる小1の壁を越えてから、小学校の放課後児童クラブへの要望みたいなものはありますか。

教育部長	丹波市では、放課後児童クラブはやっていません。今から 10 数年前までは子ども教室をやっていましたが、それよりも、アフタースクールで子どもを 6 時まで預かってほしいという方が強いという感じです。
委員長	全国的な問題ですが、一つは、就学前の子どもたちの待機児童の問題で、都市部では非常に多い。もう一つが、いわゆる小 1 の壁というもので、就学前は保育園や幼稚園があるけれども、小学校へ行き始めた途端に、そこへは通えなくなるから、6 歳の幼稚園児と 6 歳の小学校 1 年生は、パターンも違うわけですね。 小学 1 年生はお昼過ぎには帰ってくるのですが、この子の面倒を見てくれない。いわゆる学童保育という放課後児童クラブの需要は、ものすごく高まってきている。この問題で、お母さんが仕事をしていないならお母さんが家で子どもの面倒見たらいいという言い方をしている限り、お母さんはずっと家に縛られるんですね。 実は、生涯学習から遠いと言われている若い世代の方は、時間があると新しいことを街のなかに生み出してくれる可能性があります。この人たちに時間を作ってあげないといけない。それがまた仕事になっていく可能性もあります。「自分の子どもは預けて高齢者の世話をするのはどうなのか？」というようなことを言わずに、それが仕事になると街で暮していけるようになるわけで、子育てや介護で家庭に縛りつけるという考えをなくして、みんなで補って、その余った時間で生涯学習をして、新たな地域活動を展開するということを考える必要があると思います。忙しいから学習できないということは、昔から学習できない理由の第 1 位に挙がっていますが、ここにどうアプローチしていくのかということを考えなければなりません。
副委員長	まず生涯学習のことを市民がどの程度認識されているかというお話について、私は、日々の生活すべてが生涯学習だと思っております。このページの中でも、学習できない人やきっかけがつかめない人が多いとなっておりますが、アンケートの中の 1 番「あなたはどのような形態で生涯学習をしたことがありますか？」の中で、職場の教育や研修も生涯学習だと認識されている方がいらっしゃいます。日々の生活や子育ての中で、少しでもアドバイスをいただいたりすることが生涯学習だと市民が認識さえすれば、生涯学習をやっていることはたくさんあるんです。私は「いつでも・誰でも・どこでも」という原点に回帰することが必要ではないかと思います。日々の生活が生涯学習だと単純に捉えれば、もう少しまなび人が増えると思います。 もう一つ、若い人たちが忙しいと言いながら、地域コミュニティを生み出している。地縁型とかテーマ型とかご説明がありましたけど、それに加えて今「ネット型」が出ています。ネットでつながる「ネットコミュニティ」というものがあり、SNS を使ったのコミュニティができあがっています。テーマ型や地縁型はどうしても人間が相手なので、煩わしい部分が出てきます。その中で、ネット型のコミュニティへ逃げられる若い人たち。今インターネ

委員	ットを見れば、子育てについての情報がすぐ出てくる。その辺りを含んだコミュニティのあり方というのを考えていかなければならないと思います。 丹波市さんの場合、この基本計画の中で、単純に生涯学習がそこでされてるんだということを、もう一度、市民にアピールすることが必要かと思います。親から受けた一言の言葉も学習のうちですから、学習の機会という理解の仕方をするような仕組みづくりをしていかなければと思います。 これからの自治会活動においては、自分たちが今活動をしながらどういう地域を作っていくのかというところを考える機会を、自分たちで作っていかなければならないと思います。 若い人や高齢者の方も含めて、自治会の中でも接点がなく支えあう機会もない中で、これからの未来のことを考えると、今行っている自治会の活動をずっと続けられるのかどうか、続けられないのであれば、どういう形でこの地域を存続していくべきなのかというところは非常に大事なことです。持続可能な地域自治のために、自治会活動は、これから形が変わっていくだろうと考えています。 1つの考え方に、「小規模多機能自治」というものがあり、自治のあり方、これから地域で大きな課題となってくる地域包括ケアシステムのあり方、地域で高齢者の方を含めて社会福祉を自分たちでどうやっていくべきなのかということは、生涯学習の要素の中には入ってくると感じております。 自治会活動は、自分たちで見直して改めていくタイミングがくると思うので、今、自治会活動を含め、地域の活動になかなか時間がない方もいる中で、補いあいながら支えあいながら、自分たちの生活を、自分の家族でない人の手を借りて満たしていくところに、社会教育の重要性があると感じております。 先日、コミュニティスクールの委員として学校支援コーディネーターの研修会に行かせてもらいました。今、子どもたちをめぐる非常に大きな課題は、学力の格差が広がっていること。学力の格差というのは、家庭の所得に比例しており、失礼な言い方になるかもしれませんが、低所得の家庭の子どもたちには、なかなか学力が追いついていかない問題があるということでした。その問題について研修会で述べられた理由は、学力は、学校教育・家庭教育・社会教育の3つがうまく融合することで伸びていくと考えられており、低所得者の家庭では、家庭教育がなかなか担保できないという問題があるためだそうです。そこを社会教育で補っていくべきだし、それが地域教育であったり、まちの人づくりになるんじゃないかと言われていました。 学校支援コーディネーターは、例えば、学校から「ゲストティーチャーを地域の中から出してほしい」という要望を受けて、人を探して学校に紹介するという役割を現状されているのですが、地域の問題・課題を学校の方に届けるという役割の人はおられません。学校からの要望に地域は応えるが、地域のことは地域ですという図式があります。 しかし、地域にも様々な課題があり、中には学校と一緒にあって取り組む
----	---

	べき課題も多くあるけれども、そこにうまく小学生や中学生の力を借りられていません。コミュニティスクール制度を導入しても、地域は既に手一杯の状況で、これ以上コミュニティスクールを作って、どうやってこれから地域の担い手を作っていくのか…。今、学校と地域の関係性が難しいところがあると思います。学校支援コーディネーターも、コーディネート機能を果たすには、今の役割では十分ではない。その中で、「地域学校協働推進委員」という役割を作ろうという動きがあります。その人たちが、これからは将来を見据えて地域づくりの担い手になるべきであると思いますし、各小学校にそういう組織がちゃんと作られて、そこで人づくりをしていくという形が必要だと思います。
委員長	自治会に限らず、組織が世代を超えて存続していくには、それなりの努力が必要です。また、うまく世代交代をできないところは、内部に問題がある場合もある。十分活動した人は、今度は若い人に任せてバックアップにまわるというような、世代交代についても学んでいく必要があると思います。 それと、経済格差の問題。最初に出た強制と主体的な参加というものとリンクしてきます。学校週5日制になった時、学校は週5日しかないですが、土曜日、日曜日は社会教育がその代わりをするという形で始まりました。しかし、仮にそこに学習の機会があっても、そこへ子どもを参加させようと思いか思わないかで格差が出てくる。社会教育をうまく利用する親御さんの子どもたちは、そこへ参加して社会教育からも教育を受けられるけれども、参加させてもらえない子どもたちはその恩恵は受けられない。子どもの中にも弱者がいて、子どもに多様な体験をさせることに関心のない親を持つ子どもたちにどうアプローチしていけばいいのかというのは、支援と一緒だと思います。 コミュニティスクールについて、学校の要求を地域がある程度飲むということと、地域の要求を学校の教育課程に組み込むこと、これは両方しないといけないことで、地教行法で定められている学校運営協議会というのは、学校の教育課程を地域コミュニティスクール運営協議会の人たちが承認しないといけない。だから、それぐらいの権限を持ってコミュニティスクールに関わっている。地域の課題はこういうことだから、学校の教育の中に地域の課題を学ぶ機会を作ってくださいということを、コミュニティスクールで言っていないといけない。学校のお手伝いではないんです。当初は、学校の支援から始まったのですが、今は学校地域協働活動ですから、コミュニティスクールに関わる運営協議会の委員さんたちに学んでいただいて、自分たちの地域の課題を学校でどう解決していくのかということを発言していないといけない。そういう学びも必要だと思います。
委員	私は民生委員で、参考になるかなと思ったので意見を言います。 3年前に100歳体操、いきいき体操の実践を兼ねた学びがあって、自治会長に話して、次の年から始めてもらって、もう2年経つのですが、本当に

	定着しています。もう歩くのもしんどそうな方も来ておられて、みんなよく喋られるし、一生懸命体操されるし、その時に使用する椅子等の購入については市から補助も出て、20 数人分は揃っていますので、この活動は定着しそうだと思っています。
委員	学んだことを教育に生かすという点で、私が所属している高齢者学級の中の詩吟クラブでも、学校へ行って子どもたちに聴いてもらう機会を作りたいという声も聞くんですが、学校にも教育課程がありますし、かえって迷惑なのかなと遠慮があり、やめてしまっています。待っていても学校の子どもたちの方からは声をかけてもらえませんし、つながることが難しい。今、学校にコーディネーターがあると聞いたので、コーディネーターの人に言ってみようと思っています。
委員長	学校支援事業の時は、学校の図書室の整備とか、校庭の花壇の整備とか、校門でのあいさつ運動とか、あるいはクラブ指導とかというところから入っていったんですけど、やはり究極的には、学校の授業にどのようにして関わっていくのか。学校の授業に一般の市民が教えにいきなさいという意味ではなくて、学校運営協議会では、この地域の子どもたちにどのように育てほしいのか、地域の方と学校の先生が話し合って、例えば学び続ける子どもとか、人のために何かできる子を育てたいということになると、教科も大切だけど教科をどういう形で学んだらいいのかという話し合いをしないといけないと思います。コミュニティスクールは、時間がかかりますが、そういう話し合いをしていく必要はあると思います。そこに学校の事情も知ってるコーディネーターさんが上手く関われるといいと思います。
委員	今、一般の市民の方は、コーディネーターの存在をご存知ないから、学校に行って何かやりたいなと思っていても手立てがない。自発的に勇気を出して学校に行くというのなかなか勇気のいることです。
委員長	学校に何かお手伝いがしたいなという思いはあるけど、ということですね。それも確かにありますよね。
委員	私は俳句協会の副会長をしているのですが、俳句教室は丹波市のサポートを得て各学校に入っています。学校側には一切費用がかからず、丹波市の方から派遣していただくという形ですので、要請がすごくあって、3分の2ぐらいの小学校で俳句教室に入っています。 私たちには「丹波市俳句協会」という看板があるから、学校にも受け入れていただけるし、信用がある。俳句は子どもたちも勉強しているので、とても上手くいっている一つの例だと思います。ただ、サポーターは俳句の好きな者と時間のある者でやっていて、数が少なく、同じ者ばかりが出ている現状なので、サポーターを増やしていくことが課題だと感じています。

委員長	うまくいっている事例をお知らせいただきましたが、この後は、課題が出てきたものをどう解決していったらいいのかという方向へ話を進めます。
委員	その前に質問をさせていただきたいです。 丹波市の場合は自治会長のなり手がいないという状況にあるのではないかなと思います。また、自治会長はコミュニティの専門家ではありませんので、自治会における問題を解決に導いていくだけの力量があるかどうかは難しい部分があります。そして自治会には自治会の財産がありますので、運営できなくなって隣の自治会と合併したくても、財産が邪魔をして、一つの財産にはなり得ないという田舎の状況もあります。今後、持続可能な自治会といいましても、難しいと考えざるを得ません。 私は2度目の自治会長になり、まだ若い世代との間をつなぐ「つなぎ役」として務めさせていただいてますが、現在におけるコミュニティのあり方をどう分かるべきなのか、どこで学んでいくのか。先ほど、委員長から、生涯学習から遠い距離にある若い世代を生涯学習につなげていく仕組みが必要だとありましたが、この仕組みは、どこの誰が考えていくのだろうか。そして自治会長の相談相手としてのポジションがどこにあるのか。今度設立されます市民プラザに自治会長が気軽に尋ねにいった適切な指示をいただいて学びを深めて帰ってくると、そのような市民プラザになり得るのかどうか、質問をさせていただきたいです。
副市長	自治会、地域の自治のあり方についてご意見・ご質問ありましたけれども、最初にお話のあった自治協議会のあり方懇話会で、去年から議論が進んでいます。皆さんご存知のように丹波市には単位自治会が約 300 ございます。旧 6 町 25 小学校区があつて、その中に約 300 の自治会がある。 その約 300 の単位自治会とは別に、25 旧小学校区ごとに自治協議会があり、自治会も自治協議会もどちらも自治基本条例に位置づけられている。 自治会は全員加入で、会費をもらって、世帯単位で入りたい人が入る。一方、自治協議会は、全市民が個人単位で構成しており、かつ、自治協議会は個人の全市民と合わせて地域ごとの老人会、子ども会、青年会などの団体も入って構成している。 そもそも自治会は昔からあり、自治協議会は、自治基本条例が平成 24 年度に作ってその中に組み込み、後追いで法制上のスキームを作りました。 なぜ今、自治協議会のあり方懇話会を開催して協議を行っているのか。現状、自治会も、後追いで作った自治協議会も、担い手が少なく活動が上手くいっていない状態であり、その原因として、そもそも小学校区単位でなぜ自治協議会を作ったのか、自治会と自治協議会はどんな役割分担があるのか、市民も行政も理解できていないところがあるためと考えられる。例えば、重要な情報を市民に伝えたい場合、今は自治会長会に届けて、そこから約 300 の自治会を通じて市民の皆さんへ届いている状態である。反対に地域の情報は、約 300 の自治会から市へ届けていただく流れになっている。でも本

	来重要な情報は、自治協議会に流して市民に届けていただき、いろいろな課題は自治協議会から吸い上げて市に届けていただくのが望ましい。様々な地域課題は、全市民、団体が入っている自治協議会が主体的に課題解決に向けて取り組むべきで、そういう課題認識のなかで今の自治協議会の役割とは何か、将来的にどのような役割を担っていただくのか、そういうところを探っている。 また、自治協議会は、自治会を支援する「支援型」なのか、自治会は機能しなくなるので将来的には自治会に代わって小学校区単位で動く自治協議会が機能する「統合型」なのか、自治会は存続するが十分機能していないのでその隙間を埋める役目として補完する「補完型」なのか、その辺りは、市で統一するものではなく、地域の実情があるので、それは、自治会と自治協議会の役割分担というものは、地域で話し合って決めていただくということを議論している。 いずれにしても、自治会、自治協議会の両方とも担い手が不足しているという共通の課題のなかで、非常に弱っている。まず、その中で自治協議会の役割を強化するというところで協議しており、自治協議会が一定の役割機能を強化することによって、地域の課題が解決していく。そのためには、構成員の一人ひとりがよく学んでいただき、自治協議会の課題解決能力を上げていただかなければいけない。将来的には、自治協議会が小規模多機能自治を担っていただき、自分たちの地域課題を自分たちで解決していただく力を持つ。そして、プラス、テーマ型の NPO などとしっかりと協働していただいて、地縁型の自治協議会、テーマ型の NPO と連携していただきながら活動いただくことを将来的には描いているところである。 それから市民プラザ。市民プラザはテーマ型の NPO だけを支援するというのではなくて、丹波市の独自のものとしては、自治会、自治協議会も当然支援の対象となりますので、何か困った課題があったらどんどん市民プラザに持ち込んでいただいて、市民プラザはきっちりと応援をしていくという位置づけでございます。
委員長	ありがとうございました。整理していただきました。 課題解決について、先ほど上手くいっている事例の中で、上手くいっているポイントはどこにあるのでしょうか。俳句だといかがですか。
委員	やはり学校のニーズと私たちのやってることのニーズが合ったからじゃないかと思います。俳句は 60 から始めたりすることが多いのですが、子どもの頃にやっていたら 20 歳で思い出したり、40 歳で思い出したり、60 歳で思い出したりして、生涯それで楽しめるんじゃないかなと思います。丹波市に俳句協会を立ち上げていただいて、先を見込んだ生涯学習を実践していただいているのではないかなと思います。そう考えると、私たちも駒の一人として、とても忙しいというのがありますが、頑張らないといけないと思うわけなんです。だから私は、丹波市の施策の一つに感謝しています。

委員長	財政的・制度的な支援みたいなものは得て、それが継続的に役立っているということはありますか。
委員	紙があつたらできるのでお金はいらないのですが、学校へ行く途中で万が一事故があつた場合の保険関係についてはバックアップがあるので、ボランティアとして行くなればそこは守られているなど感じます。
委員長	指導する側も学ぶ側も、目的が明確で、共有されているうえに、安心が担保されているということですね。
委員	私には、丹波市を俳句のまちにしたいという目的があります。丹波市には、細見綾子、西山泊雲など、たくさんの俳人がおられて、様々な施設もありますし、句碑も多くあるので、本当に市をあげて盛り上げてほしいです。 それと自治会の方は、やはり同じようにニーズだと思います。丹波市も本当に高齢者が目立って、ピンピンコロリのためにはやっぱり集って喋って元気に過ごさないといけません。ご近所誘い合つて来られますし、80代の人もおられますし、このまま続けていきたいと感じています。
委員	質問よろしいですか。成功例でお話いただいて、100歳体操を勧めたい思いで自治会長さんにお話を持っていかれたのはすごく素晴らしいと思うのですが、その自治会長さんは非常にキャパが広いと思います。というのは、いい活動であっても、持ってこられたら自分の仕事が増えます。それを実際に新年度から実施されるにあたって、先ほど言った市への交渉、あるいは用具の貸し出し等々、それから来られる方々へのお世話、PR、案内、一つの事業には必要な用件は多くありますが、それは誰が進められたんですか。
委員	偶然、夫が自治会長だったので、全部したと思います。
委員	自治会の準備とかは誰がなさったんですか？
委員	たぶん自治会だと思います。私は訪問した時に呼びかけはしました。
委員	自治会の皆さんの力で成り立っていった事業だということですね。
委員	そうです。世話役の人も60代の方が2・3人おられて、みんな準備もしてくれます。
委員	まず1点目、俳句がうまくいったのは、学校教育の中で俳句は絶対しないといけないうことだから、その内容がぴったり合っていて上手くいったのだと思います。例えば詩吟とか大正琴で得た学びを小学校で生かせと言われても難しいところがあるので、活動をすることで、元気や生きがい自分が

	湧いて、その元気で他のボランティアをして知識を還元していくという形しか取れないクラブもあります。
委員長	それと 100 歳体操は、私の村も 10 月から始めるんですけども、やっぱり自治会長さんの推しでした。やろうやろうと言われて、1 回目は、会場も全部整備されて、やっぱり自治会長さんの強い力がありました。 自治会長さんをはじめ、中心になって動ける人がいるかどうかということになりますが、今までの話だと、その自治会長さんも疲弊していて、高齢化も進んでいる。できるところはやっているけど、できないところをどうケアするのが課題だと思います。
委員	先ほどから出ている市民プラザのスタッフとして私も関わらせていただいているんですけども、そこで学びの力というのは大事になってくると思います。100 歳体操の話は、小難しい話をするとボランティアマネジメントの話になるのですが、多分それが自然とできていて、上手くいった例だと思います。でも中にはその自治会の中で、最初の自治会長さんの力が強すぎて、自治会の役員がしないといけないことになってしまうと継続が難しい。自然に、「私たちがやったらいいよね」とできるのが、一番いいパターンだと思いますので、そういったことを学ぶ機会は、丹波市にとって必要だと思います。
委員	100 歳体操は、自治会が主導という話がありましたけど、うちは違うんです。うちの地区は、女性のサークルの方が 100 歳体操を主導されていて、今も自治会は一切絡んでません。
委員長	それぞれの地域のあり様によって一通りではないのでしょうか。ただやはり、動いてあげようかと思う人が増えるといいし、動いてあげようかと思う人のノウハウもいるから、その人たちが学べる機会というのは必要なんではないでしょうか。他に課題はないですか？
委員	先ほど、生涯学習を知らない人もいるという話がありましたが、学びのきっかけは、たくさんあると思うんです。ひと昔前から CM で流れてたユーキャン、あの CM が生涯学習というものを国民に知らしめたと思います。そういう生涯学習を知ってもらう啓発が必要だと思っています。誰がやっているのかというのはこれから考えることになると思います。
委員長	生涯学習強迫観念症になられてもいけないですしね。忙しい人は忙しいなりに仕事の中で学びをしているという部分もありますし、そんなに難しく考える必要はないと思います。
副委員長	実は、私も社会に出た時に非常に感じた事なんですけど、行政として生涯学

	習は特別なことのような空気を作って、それを生涯学習と名付けてやったので、どうしてもみなさんの中で、こういう講座が生涯学習であって、家で草引きしてるのは生涯学習ではないんだと分けて考えている部分がある。しかし、草引きひとつにしても、学ぶところはたくさんあります。この草は根っこが引きやすいから手で引ける、これは鎌を使わないと引けない、ということも学習のうちなんです。生涯学習社会という言葉が流行ったときに、講座を作って、教室を作って、これに参加したから生涯学習ですよと我々が言いすぎた部分があると思います。仕事の中で学ぶことも生涯学習だと認識されている方もおられますので、生涯学習は特別なものではないということをもう一度啓発の中で訴えていく必要があると思います。
委員	男性が生涯学習に来られない理由として、百姓、農作業をされている場合が多いです。農作業はすごく難しいし、生涯学習だと思います。都会の男性がどうされているのかというと、友達の主人は、定期を買って京都の図書館へ通ってるとか、それぞれの土地で生涯学習をされています。それぞれの生涯学習の形があると思います。
委員長	生涯学習では、いわゆる「一般教養型生涯学習」と「職業教育型生涯学習」があって、日本ではどちらかというと、一般教養型の学びである「趣味・教養」と言われるものが生涯学習のメインになっていて、逆に、仕事をしている人を学習だと思わないことが多いです。仕事を興してお金儲けをするというのだって、実は生涯学習で、これからそういう部分がものすごく求められると思います。まちの中でお金がなければ回らないことは多くて、人に貢献してお金を貰って自分たちの活動を続けて、人も雇えるというような生涯学習は必要だと思います。また、子どもの問題とか介護の問題とか、あるいは農業のことと繋がっていく、そういう生涯学習の考え方も必要だろうなと感じます。 これから人口減少が進んで、丹波市がどのようにして持続可能になっていくかという時には、その部分もまた一つ考えないといけないでしょうね。
委員	これからの世の中で、「人づくり」、地域づくりを含めた「まちづくり」、今委員長もおっしゃられていた「仕事づくり」、この3つが重要なテーマだと思っています。経済がうまく回っていかないと、まちは持続可能性が低くなると感じていますし、丹波市にとって持続可能な人づくり、まちづくりの要は、私は生涯学習だと認識しています。今の議論の中でも、やはり生涯学習の重要度というのは高いと感じました。まちの総合政策や、まちづくりビジョンの中でも、生涯学習の重要性というものをより高めていってほしいというのが個人的な意見です。
副委員長	時間も迫ってまいりましたので、少し課題を述べさせていただきたいと思います。まず資料5のまなび人のところで、費用がかかるといわれている

委員長	が、この費用とはどんなものかという分析をする必要があるのではないか。先ほど、会を維持していく参加費や会場費が出てきましたが、費用がかかるというのは実際にどういうことなのか気になりました。 それから、学習に取り組みやすい仕組みづくりが必要ということで、生涯学習の概要や考え方については、解決方法が見つかったと思います。 次のページのまなび力のところで、地域や社会で有効活用するための仕組みが必要だと言われながら、アンケートの中では、やる機会や場所の提供を求めているというアンケート結果が出ております。このあたりのギャップをどう考えるか。また、学んだことを有効活用につなげる一つの方法としては、丹波市さんの地域通貨とかを作って、今学校で奉仕されているようなものについては、ポイントをつけて、そのポイントを集会所を借りるのに充てるといったような方法もあると思います。 それから、一番下の教育資源を有する NPO ですが、教育資源を有する NPO ではなくて、教育資源も活用して連携、協働を推進しながら、丹波市は観光資源が非常に多いと思うので、その観光資源もそこに入れていいのではないかと私は思っております。 それからまなび里のところですが、2030 年か 40 年かになると今の職業が AI 化されて大体半分ぐらいになると言われています。中ほど下を書いてあります起業の支援というのは、若者がまちへ行かなくても仕事ができるようにするには起業すればよいということです。起業をできるような教育体制を、小学校あたりから地域教育の中で捉えていく必要があるということも、一つ提案させていただきます。 資料 5 に沿って、課題となっている解決方法も含めてご発言いただいたんですが、他に皆さんの方から、このようにしたらよいのではないかとこの解決策があれば聞きたいと思うのですがいかがでしょうか。 目指すまちの姿とか目指す市民像、そしてどんなゴールを設定していくのかというところが重要になってくるというお話でしたが、丹波市の目指すまちの姿、目指す市民像についてはいかがでしょうか。 市の方からも案としてはいろいろ挙げていただけてますが、そこに社会的な包摂であるとか支援というのも含めて、みんな取り込んで一緒に生きていくまちであってほしいという思いがあると思いますが、丹波市としてはいかがでしょうか。
委員	目指す市民像の最後の文言に加えて、学習を通じて地域課題を自分ごととしてとらえ、他者と協働しながら持続可能なまちをつくりだす人と、また、その持続可能なまちづくりを担う人をつくる人。人づくりの観点で文章が入っているべきではないかと感じました。それから、学校教育と社会教育が融合し、まちの担い手づくりの基盤が備わっているというのが、目指すまちの姿の中にあればよいと思いました。それらが持続可能的にある姿が理想であると思います。

委員長	丹波市の生涯学習、こういった審議会に関わるようになって生涯学習の歴史や入ってきた経緯はお話させていただいたこともあるんですが、当初は生涯教育と言っていました。それがだんだんと生涯学習という言葉に変わってきた。最終的に生涯教育が大切で、ただ人は学ぶだけではなくて、学んだところから、教育的な支援をもって人を育てていく。教育するのは行政の仕事だけではなく、学んだ人が人を育てていくというところの学習へと展開していく必要があります。おっしゃっていただいたように、人を育てる学びというのは大切だと思います。
委員	よく支援者の立場として、読んだり聞いたりしたことは、すぐ忘れてしまう。さらにそれを自分で人に伝えたり教えたりする時に、どんどん自分の学びも深まっていく。さらに、教えて終わりではなく、もう一つ次の展開が自分にも訪れる。一方的に教えるのではなく、教えたり教えられたりということがあちらこちらで生まれてくるのが丹波市の姿かと思います。
委員長	図書館で本のコメントをつけるというのも、自分が感じたことを人に伝える、教えるということです。自分の中にだけ留めてるものを外に出して、人のために何かする。人のために何かするというのは、すごく大きなことだと思います。これも教育ですよと言われたら大層だけど、共有していくために動くことは大切です。
副市長	この中で少し弱いなと思ったのが、目指す市民像にしろ目指すまちの姿にしろ、市民が何を学ぶかといった時に、自分たちが住んでいる地域の良さを知るとか、地域を理解する、地域に愛着を持つ、誇りを持つ、そういうような観点。目指す市民像としては、地域に誇りをもって地域を愛する人がたくさんいる、そういう人、あるいは、そういう人がたくさんいるまち。そのためには学ばないといけない。その辺りの観点が抜けてるかもしれないので、入れてみてはどうかと思います。 それと先ほどから出て来ているのは、経済の話とか稼ぐというような話がやっぱり重要だというご指摘がある中で、自ら起業するためにはたくましく生きていく力を養っていかなければいけない。そのような観点も入れていったらどうかと思います。
委員長	私、大学が奈良にあるもので、奈良のまちづくりにも関わるんですけども、奈良って歴史もあって、観光都市で、いっぱいいいものはあるんだけど、奈良の人には当たり前なんです。実際、自分のまちの良さあまり気づかないんです。自分のまちを愛する、自分のまちの良さってなんだろうというのを自覚するためには、他人に訴えないといけないんです。どんなにいい所があるかというのを他人に訴えようとして初めていいところが見えてくるので、観光ということを先ほどおっしゃられましたが、丹波ってこんなにいいところだよというアピールをしていくということは、非常に重要

	だと思います。そうすることで、いいところだと実感できるし理解できる。 まちを愛してアピールして、丹波はいいところだと語れる。まちの外へ出て行っても、丹波のことが語れる人を育てていくのが大切だと思います。
委員	先ほど、生涯教育というのは、生活すべてなんだというところにすごく豊かさを感じました。教育か生涯学習かと意識しない中で私たちの生活があって、教えたり教えられたりというような暮らしがある。だからそういったものも生涯教育なんですよと胸を張って言えるような空気が必要だと感じる。お互いが支え合い、成り立たせていくための生涯学習という色合いをもっと打ち出していく方がよいかなと思います。
委員	めざす丹波市について色々思っていたんですが、コミュニティをとれる場所は、やはり地元だなと思いました。まずは身近なところで人に集まっていたいただいて、年齢問わずいろんな場所で、そこから少人数でもいいから発信していくこと。まず地域の小さいところからコツコツと、そして自治会とか、自分の校区だけでなく、成功した事例で空いた人に協力していただいたりして繋がっていく。自分の住んでいるところから波紋を広げようとする事で丹波市が良くなっていくのかなと、ちょっと行動してみようかなと思いました。
委員長	ちょっと行動してみようかな、動いてみようかなと思って一歩が踏み出せるような人たちが、たくさん丹波にいたらいいんですけどね。そんな丹波の人、そしてそれを支える人がいる。気が付いたときに一歩動いてみようかなという人がいて、それを支える人がいるようなまちというのは、いいと思いますね。 時間も迫ってまいりましたが、いろいろと非常に参考になるご意見もいただいたかなと思うんですが、あとと言に残したこともありましてらおっしゃっていただいて、そろそろ締めにしたいと思います、どうですか。
委員	自分が良いと思っていることを人に伝えたら、意外と窓口が開いて、めんどろだなあと思って突っ込んだ足が抜けなくなってまた楽しくなっていく人もあるんです。だから、積極的につながって、人に、世間に勧めていくというのも大事なかなと思いました。
委員長	ありがとうございました。たくさんいろんな意見が出てきましたし、こちらもいろいろ知らないまま発言して色々教えていただいた部分もありましてありがとうございました。 今日の第3回はこんなところにさせていただいて、今日皆さんに出していただいた課題や解決策、こういうまちにしたいんだとかいうご意見は、事務局さんが次回に向けてまたまとめくださると思いますので、それについてまた今度協議していきたいと思います。

事務局	7. 第4回審議会の開催日程 令和元年 11 月 25 日（月） 午後 1 時 30 分 氷上住民センター
副委員長	8. 閉会 ○閉会あいさつ 本日は、お忙しい中、長時間ありがとうございました。今日は、後期計画の策定に向けた課題と課題解決に向けた具体的な施策ということでご協議いただきました。その中でやはり感じるのは、まちを愛し、自分の住みたいまちをどうつくるか。ここに関わってくると思います。今後、今日の課題等について、お気づきになった点がありましたら、事務局までご連絡いただきたいと思います。 本日は、お疲れさまでした。